

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2022.8

No.86



— 特集 —

1 頁：「教育の質の向上を目指して」

2・3頁：インタビュー 「人」

4・5頁：特集 教育の歴史に寄り添ってみませんか？ ～教育資料収集整理事業の紹介～

石川県教育委員会 教育長 北野 喜樹氏

文教国際理解講座 講師 ジョフリー・コンサルボ氏

「教育の質の向上を目指して」

石川県教育委員会 教育長 北野 喜樹



今年4月に教育長に就任して、早くも5ヶ月ほどが経ちました。この間、いくつかの県立学校を訪問し、授業の様子などを見学させていただきました。学校現場で子どもたち一人ひとりとしっかり向き合い、熱心に指導する先生方の真摯な姿勢を目の当たりにして、

その情熱に、あらためて敬意を表するとともに、教育の現場である学校の取組を支援していく必要性を強く感じました。

近年、少子高齢化や人口減少に加え、グローバル化の進展、AIやIoTをはじめとする先端技術の高度化など、社会全体が急速に変化しています。

そして、教育の現場には、児童生徒の多様化、教員の急激な世代交代、教職員の多忙化など多くの課題を抱えています。加えて、新型コロナウイルス感染症と共存していく学校運営が求められる状況でもあります。

こうした先行きの見通せない時代にあって、学び続ける意欲を持ち、多様化する課題に対し主体的に解決できる力を身に付けた、次代の石川を担う人材を育てていくため、昨年3月に令和7年度までの本県教育の総合的な指針となる「第3期石川の教育振興基本計画」を策定しました。

この第3期計画では、第2期計画策定以降の状況の変化を踏まえ、新たに「GIGAスクール構想の実現」や「教職員の多忙化改善」などを、新たな重要施策として掲げました。

GIGAスクール構想の実現については、全ての子ども達の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、ICTは必要不可欠とされており、本県では、昨年度から全ての公立小中学校等で1人1台端末を活用した学習が始まっています。

また、高等学校等でも、昨年度末までに1人1台端末の配備が完了し、4月には、中学校で端末の活用

慣れた1年生が入学してきました。

今後は、この1人1台端末をツールとして活用し、様々な学習場面において、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、教員の指導力の向上を図り、生徒の学びの質の向上につなげていくことが必要です。

県教育委員会では、小中学校でモデル校を指定し、外部専門家とも連携しながら、模範的な授業の動画配信を行ったほか、教員総合研修センターの指導主事が学校へ出向いて研修を行ってきました。

加えて、今年度、新たに高等学校において教科ごとにプロジェクトチームを編成し、研究授業の公開や授業の動画配信を行うなど、きめ細かくサポートすることで、端末を効果的に活用した授業づくりにつなげていくこととしています。

また、昨今の学校現場は多忙を極めており、教職員が、将来にわたって心身ともに健康を維持し、情熱をもって子どもたちの教育にあたっていくためには、教職員の多忙化を改善することが重要な課題となっています。

平成30年から3年間の県下で足並みを揃えて実施した多忙化改善の取組で、教職員の時間外勤務については、月平均時間、月80時間を超える教職員の割合とともに、着実に減少し、教職員の意識にも変化が見られるなど、取組には一定の成果がありました。

しかしながら、月80時間を超える教職員数はゼロにはなっていないことから、引き続き、国に対して抜本的な対策である定数改善を求めていくとともに、多忙化改善を不断の取組として、さらに深掘りした取組を進めていくこととしています。

今後とも、こうした教育現場の様々な課題に的確に対応し、子どもたちが安心して学び、確かな学力を身に付けるとともに、厳しい時代を生き抜く人間力を身に付けることができるよう、教育の質の向上に取り組んでいきたいと考えています。



文教国際理解講座 講師 ジョフリー・コンソルボ氏



アメリカ合衆国ワシントンD.C.出身。石川県文教会館設立当時から行っている事業のひとつに、英会話講習「があったが、1999年より英会話をソールとした「文教国際理解講座」とし、異文化理解と日本文化の再認識を促す内容にシフトしている。先生と一緒に学びたいというリクエストも多い中、この講座の歴史を振り返ると共に日本の英語教育について思うところを語っていただいた。インタビュアー 文教会館 館長 堀田 葉子

～国際理解講座の講師として～

館長：平成2年（1990年）から講師を続けていらっしゃるということで。当時は中学生コースもあったのですね。

コンソボ先生：そうです。帰国子女だった生徒もいましたし、お友だちと一緒に受講する生徒もいました。一緒に英語でしゃべりたいという純粋な思いがあったのではないのでしょうか。中学生の場合は、英語のリズムをつかめるように音声教材を使用したり、カードを使ってゲーム形式にしたこともありました。

館長：チャレンジ精神が豊富だったのですね。

コンソボ先生：生徒の中には、タレントになった人や医者さんになった人など、各々が決めた道を歩んでいるようです。

館長：みなさん英語を学ぶといいますか、しゃべるといいますか、会話する意識が高かったのですね。当時の大人の受講生は、どんな方がいらっしゃいましたか？

コンソボ先生：そうですね、いろんな方がいらっしゃいましたが、学校の先生も多かったと思います。講座の目的の一つには、学校の先生に来ていただくということもありましたから。また、公務員の方や大学生、大学の教授もいました。英語の論文を書くために必要とされる方もいたようです。また、当時初級クラスからのスタートでしたが、継続的に受講することで、今現在は上級クラスで楽しんでいらっしゃる生徒さんもいらっしゃいます。



続けることでどんどんステップアップしていったのですね。素晴らしいと思います。

館長：この30年間で一番変わったことは何ですか？

コンソボ先生：大きく変わったのは、まず辞書です。昔は紙があたりまえだった辞書も、電子辞書や携帯の端末で音声を確認出来るようにまできています。とにかく早いです、全てが。スマホですぐに単語の意味がわかります。でも身に付かないのです。言語は、繰り返し使うことで身に付いていきますし、学んだ単語はしっかりとメモしていくことが大切なのです。

～テーマの設定・異文化を学ぶということ～

館長：ICT機器の急速な発展によって、良いこともそうでないことも起こり得る。何をとっても一長一短とはこのことでしょうか。英語を使って積極的に話す、その話のテーマが様々な国の文化や歴史、時事問題に通じていることもこの講座の特徴ですね。海外の文化に触れることが目的という受講生もたくさんいらっしゃると思います。

コンソボ先生：講座終了の時間になっても物足りなく感じるが多々あったようで。当時は終わってからも喫茶店などでよく話をしました。そうですね、豎町のホットハウスはよく行きました。英語で話しながらカレーを食べていましたね。

館長：楽しい時間だったのでしょね。初級から上級までクラスを分けて行っていますが、講座ごとのテーマ設定などはどんな工夫をされているのでしょうか。



コロナ禍前の講座の様子

コンゾボ先生：同じテーマで進めることもあります。その場合は、講座のレベルに合わせて言葉を選んで説明をしていきます。また、教材の工夫もしています。教科書も使いますが、その他にタイムリーな話題の提供も心がけています。ネットのニュースや動画なども良い教材になります。今でしたら、エリザベス女王の即位70周年についての話題で授業を進めています。クラスによっては、パディントンベアと女王の対談の動画をテーマにすることから始まり、そこからイギリス皇室の歴史や政治、そして階級社会のことなどがテーマになるなど話題はどんどん広がっていきます。



授業で紹介された絵本

～言葉を学ぶこと～

館長：ところで、言語を学ぶことについてですが、1つの言語をマスターすると2つ、3つとその他の言語も時間をかけることなく学べるという話もありますが。

コンゾボ先生：外国語をマスターするには2,500時間必要だとも言われます。在学中に700～800時間としても残り1,500時間ほど必要になりますね。それをどこで確保するかということになりますね。私にとっての外国語である日本語は、大変難しい言語でした。特に漢字。音読みや訓読みなど文字に音を当ててあるから難しい。さらに読むことができても書くことができない。加えて「適当」な部分もあるからさらに困ります。例えば「前向きに検討してください」と言われると、何だ？？ということになるわけです。

～日本での生活・古都金沢を想う～

館長：来日したことや、文教会館で講師をするきっかけなどについてお話しいただけますか。

コンゾボ先生：両親が外国で仕事をしていました。母はバンコクで先生を、父は上海に住んでいたこともあり、アジアに行きたいという気持ちはありました。大学在学中に、日本の外務省から派遣されて働いていた先輩がいて、後日その人から日本で英語を教えなかと誘われました。大学では歴史を学んでおり、日本語は全く出来なかったため、来日してから必死で勉強しました。大変だったけ

ど、楽しかったです。文教会館で働くスタッフの皆さんがしている電話応対からも、日本語の使い方など多くを学びました。実は、日本で仕事をすることを選んだ後、大阪や東京へ行くチャンスもありました。でも、金沢を選んで大正解です。とても心地よく大好きな街です。こちらで結婚もし、今に至っています。暮らしてみてもわかったことは、やはり環境も良くとても恵まれている場所だということです。きっと、金沢に生まれ育っていたら気づかなかったと思うのですが、外国から来た自分にとってはそのように感じます。

～Life Long Learningの時代～

館長：最後になりますが、これからの抱負をお聞かせください。

コンゾボ先生：文教会館のおかげで多くの人とやりとりすることができたし、多くを学ぶことができました。本当に多様な人たちが受講してきましたし、現在もそうです。また幅広い年齢層の方たちがいて、他にない交流ができていると思います。そして国際理解講座では英語で話す力を伸ばすと共に様々なジャンルの話題で、グローバルな視点を持ち、考えを深めることができます。他県にはない、特徴のある講座だと思っています。いろいろなことが変わりゆく中でも、この講座は続けていくこと、そこを大切にしたい。現在、時代のキーワードとして「Life Long Learning」がとても注目されています。この生涯学習の視点を大切に、皆さんと楽しく学んでいきたいと思っています。



2022年度の講座は5月10日から始まりました。人数に余裕のあるクラスもありますので、ぜひお問い合わせください。お待ちしております。



特集

教育の歴史に寄り添ってみませんか？

～教育資料収集整理事業の紹介～

当財団では、本県の教育の足跡の顕彰と活性化に寄与していきたいと考え、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。この事業は、1999年（平成11年）にその前身である「石川の教育史資料収集整備事業」として県の委託を受けスタートしました。2011年（平成23年）に当財団の自主事業として位置づけられ、県内に存在する貴重な教育資料を収集・整理し、展示等を行っています。約20年の間に収集・整理された教育文献・教育用具等は約5万点を数えます。これらの教育資料は当館の資料展示室や物具室で閲覧することができます。（要予約）なお、蔵書リストは当館ホームページよりダウンロードできます。

教育資料とは??

- ・石川の学校や教育機関・教職員や児童生徒の教育活動の記録
- ・教育の力量をつけていくために用いられた図書や文献、器具、器財等
〈教育資料収集整理事業としての捉え方です〉



教育資料展示室～地下1階～

学校や市町教育委員会等の組織団体からご恵贈のあった教育資料が保管されています。

学校新聞や生徒会誌のほか周年史、そして閉校した学校からご恵贈のあった閉校記念誌や、ご退職された先生方が自らの記録を綴られた書籍なども展示されています。

そして、学制頒布以降の検定教科書や国定教科書はもちろん、学校が体系化、系統化されていく変遷の様子もまとめて展示されています。また、書籍だけではなく県立学校の変遷を記したパネル等も展示されています。



今でこそ「ICT」の時代ですが、収蔵資料の中には手書きのものが多数あります。個人からの恵贈資料には、ノートや落書きした教科書などもあります。今も昔も変わらない姿を思い浮かべることができます。



高等学校の刊行物の閲覧ができます

中学校での社会見学や金沢自主プラン計画に、文教会館所蔵の「高等学校の刊行物の閲覧」を取り入れてみてはいかがでしょうか。閲覧していただきますと、昼食会場として会議室を利用する際に会議室の利用料が免除される場合があります。県内の高校の資料などを見て進学の手引きに役立ててください。



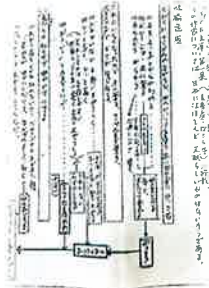
TOPICS～日本女子体育の母～

日本女子体育の母といわれる二階堂トクヨ氏。NHK大河ドラマ「いだてん」の前編でも登場し、陸上競技で日本人女子初のオリンピックメダリストとなった人見絹枝選手を支えた、あの先生です。その二階堂トクヨ先生が、石川県高等女学校で体操科の教諭として活躍されたことはご存じでしょうか。また、この石川の地で体操科を受け持ったことが、その後の二階堂体操塾、現在の日本女子体育大学の創設に繋がったとされています。志を持って邁進したトクヨ先生の足跡が、ここ石川・金沢の地に残されていました。

「二階堂トクヨ先生を顕彰する会」へ情報提供させていただきました際、その返信に同封されていた会報「トクヨ通信」第9号を参考としております。

～教育物具室～

収集された教育物具等が保管されています。普段は立ち入り禁止となっています。閲覧希望の方は、事前にお電話での予約をお願いしております。



～資料室～

退職された先生方からご恵贈いただいたたくさんの資料が保管されています。ご自身で綴られた学級だよりや、日々の授業のために創られた指導案を整理したノートもあります。

また、大切に保管されていた明治期から昭和初期の教科書やノートもご恵贈いただいております。



推進委員会と資料調査員会



～8教育団体～
 県小中学校長会
 県高等学校長協会
 県退職校長会
 県高等学校退職校長会
 県PTA連合会
 県高等学校PTA連合会
 県教育振興会
 県特別支援学校長会

当事業の充実を図るため8教育団体のご協力を得て、年2回の推進委員会（写真：左上）と年1回の資料調査員会（写真：下）を開催しています。

委員の皆さまからは、教育資料の収集整理・活用に関するご意見や小・中・高等学校、特別支援学校等の資料について情報を頂戴しています。



教育ウィーク関連行事のお知らせ

◆教育史セミナー 今回はパネルディスカッション形式で行います

- ・テーマ 「学校教育の未来 ～コロナ禍において校長が考えたこと～」
- ・日時 11月4日(金) 14:30～16:00
- ・場所 石川県文教会館 4F大会議室
- ・パネリスト 小・中・高・特別支援学校の退職校長(令和4年3月退職者)

コロナ禍における学校・教員・子どもの様子や校長として一番悩んだこと、これからの学校教育についてお話しいただく予定です。



◆文教会館所蔵 「第246回教育資料ロビー展」

- ・テーマ 「いしかわの学校 ～学校教育の歴史を見つめて～」
- ・日時 11月1日(火)～11月7日(月)
- ・場所 石川県文教会館 1Fロビー
- ・内容
 - ・戦後の学校の様子をパネル展示
 - ・いしかわの教師たちの足跡
 - ・学校年史や閉校記念誌を展示

これまで収集して参りました資料の中から、戦後県内の学校の様子が見える写真パネルや、ご退職された先生方が書かれた書籍等を展示します。どうぞ、お立ち寄りください。



お願い

学校やご自宅で保存されてきた古い教科書や教具などの教育資料、また、先生方が綴った「学びの記録」や数々の「思い出」(書籍に限る)など、ご恵贈いただける方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡ください。

石川県文教会館 事業課 TEL.076-262-7311

事業紹介

第35回 いしかわ県民陶芸展 作品大募集!!



第34回大賞 寺西 芳男
「けんすいー花器ー」



第33回大賞 奥村 季花
「カ」

◆作品募集◆

- 作品規定
- ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
 - ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 - ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内

受付日時 令和5年1月15日(日) 10:00~15:00
 受付場所 石川県文教会館4階和室
 出品料 一般:2,000円、青少年(20歳未満):無料
 審査員 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋長左衛門
 (五十音順・敬称略)

主催: 公益財団法人 石川県文教会館
 後援: 石川県、金沢市、石川県教育委員会、北國新聞社、
 NHK金沢放送局、MRO北陸放送、
 テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、
 ラジオこまつ、ラジオななお、FM-N1



第32回大賞 能登 邦男
「赤獅子 黒獅子」

◆作品展示◆

展示期間 令和5年1月21日(土)~29日(日)
 9:00~16:30 (最終日は15:00まで)
 展示会場 石川県文教会館
 表彰式 令和5年1月22日(日) 13:30~15:10
 石川県文教会館
 ◆賞状授与:大賞、石川県教育委員会賞、理事長賞等
 ◆審査員による講評・作品解説
 その他 展示期間中、入場者の投票による
 「わたしの選んだ一点賞」を実施します。
 投票された方には抽選で記念品を贈呈します。(若干名)

応募要項・応募票は、石川県文教会館にあります。
 また、当館のホームページからもダウンロードできます。

<http://www.bunkyo.or.jp/>



教育資料ロビー展 ~1Fロビーにて開催中~

「特色ある学校の活動」として、県内にある学校の取り組みの様子を順次展示・紹介しています。
 現在どの学校が展示されているかはホームページでご確認ください。
 You Tubeでの発信も行っていますので、是非ご覧ください!!

教育資料ロビー展

検索



県立工業高等学校



県立田鶴浜高等学校



県立医王特別支援学校



日本航空高等学校石川

事業紹介

2022年度 文教国際理解講座

～ネイティブスピーカーと一緒に
異文化を学びませんか?～

アメリカ出身のネイティブスピーカーの指導で、言葉や文化を学べます。
定員に空きのある講座には途中入会ができます。文教会館までお気軽にお問い合わせください。

実施期間：2022年5月～2023年2月

対象：一般 教職員 高校生

定員：1講座 20名程度

受講料：年額36,000円(年35回)(教材は実費負担)

※途中入会の方の受講料は入会後の回数分となります。



初級：あいさつ程度の会話ができる (英検3級程度)
準中級：英語で簡単なコミュニケーションができる (英検準2級程度)
中級：英語でコミュニケーションができる (英検2級程度)
上級：日本語同様に会話ができる (英検準1級程度)



この講座では様々な年代の方と話をすることが出来て楽しいです。日本だけではなく世界のニュースについて英語で理解できるように意識するようになりました。(受講生の声)

見学お申込みも
お待ちしております！

文教国際理解講座

Q検索

令和4年度 文教アートウェイブ

文教アートウェイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年も感動のひとつときをお届けします。



♪今後の公演予定♪



- ◆金沢高等学校吹奏楽部サマーコンサート
令和4年7月30日(土) 開演14:00 ◇入場：無料
- ◆石川県立金沢桜丘高等学校吹奏楽部クリスマスコンサート
令和4年12月18日(日) 開演17:30 ◇入場：無料
- ◆石川県立金沢伏見高等学校 文化部発表会
令和5年3月18日(土) 開演13:00 ◇入場：無料
- ◆合唱団「水星」演奏会
令和5年3月21日(火・祝) 開演16:00 ◇入場：1,000円
- ◆石川県立金沢泉丘高等学校合唱部 第13回定期演奏会
令和5年3月25日(土) 開演14:00 ◇入場：一般500円
- ◆金沢市立西南部中学校合唱部 第3回演奏会
令和5年3月26日(日) 開演14:00 ◇入場：無料

令和4年度 文教
アートウェイブの
リハーサル風景
令和4年6月18日



令和5年度の文教アートウェイブ公演募集!!

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に演劇や演奏会等の公演を希望される方に**利用料と冷暖房費を無料**でホールをお使いいただけます。(照明設備費・舞台技術費等有料)

利用期間：令和5年度、9月・10月・11月・12月以外の月(リハーサルを含み3日間を上限)

申込期間：令和4年5月2日(月)～9月30日(金)

申込方法：事前に当館へお問い合せの上「文教アートウェイブ申込書」に必要事項を記入し、文教会館事業課までFAXまたは郵送してください。申込書の書式はホームページからダウンロードできます。

※詳しくは文教会館HPで確認いただくか、お電話でお問い合せください。

TEL (076) 262-7311

★小・中学校の成果発表会にも是非ご利用下さい!★

文教アートウェイブ

Q検索

施設紹介

文教会館の施設ご利用について — 教育文化の発信に 研修・会議・交流の場 —

新型コロナウイルス感染予防策として、来館者にマスクの着用を求めるほか、手指消毒用アルコールの設置、非接触型体温計の貸出し、ドアノブ・手すり等こまめに消毒液による清掃を実施しています。



ホール (590席)

- ・学会・シンポジウム・演奏会・発表会・大会・式典などの会場としてご利用していただいております。
- ・付属設備としてプロジェクター、ピアノ（ヤマハ・スタインウェイ）などございます。
- ・楽屋及びリハーサル室のご利用は無料です。



Wi-Fi 機器の設置について

《ZOOMなどのオンライン会議にどうぞ》



- ・会議室にはWi-Fi機器を設置してあります。
- ・プロジェクター（スクリーン付き、税込み2,200円）と組み合わせてもご利用いただけます。
- ・他備品種々ご用意しております。

喫茶コーナー「エース」よりお知らせ

～耳より情報～ セール開催中～

5人以上で会議室をご利用の際は、5杯以上のご注文で、ホットコーヒー・アイスコーヒーを、それぞれ1杯あたり**200円（税込み）**で提供させていただきます。（土曜、日曜、祝日を除く）
スタッフ一同ご注文をお待ちしております。



ビーフカレーセット
食後のコーヒー付き
650円



喫茶コーナー「エース」ではコーヒー、紅茶など各種お飲み物や、トースト、ピラフ、パスタ、カレーライス、カレーうどんなど軽食をご用意しております。

トースト 210円
カレー 390円
ピラフ 360円
カレーうどん 360円
パスタ 360円

当館ホームページで詳細をご覧ください。街なかのオアシス「文教会館」をぜひご利用ください。

